

水から学び、みずから考える私たちのまち

小学校低学年 小学校高学年
 小学校中学年 中学校



プログラムの目標

①地域の水資源の保全に取り組むために、児童が、北海道は水と関わりの深い地域であることを知る。
 ②水についてさまざまな観点から理解を進め、関わり方を見直し、自分たちでこれから取り組むべきことを考え、計画する能力・態度の育成を目指す。

プログラムの概要

北海道や地球上の水資源の利用状況などを踏まえ、産業や歴史などを通じて地域の水資源について学ぶ。さらに体験や対話などを通じて、私たちの生活や産業には水資源が不可欠であることや、使うことができる水は有限で、世界的には希少であることに気づく。

次に地域の水環境を支える様々な人の取り組みや思いを聞き、自然環境が持つ機能を調べることで、自分たちが住んでいる地域の生活や産業と水の関わりを再確認し、学んだことを協力してまとめる。

最後に、自分たちが住んでいる地域の将来の水環境をみつめ、できることを計画し、小学校の他の学年や地域の関係者に対して発信する活動を行う。

学年	小学校5年	小学校5・6年	小学校5・6年	小学校5・6年
教科/領域	社会	家庭	道徳	総合的な学習の時間
学習内容	(1) 我が国の国土の自然などの様子について、次のことを地図や地球儀、資料などを活用して調べ、国土の環境が人々の生活や産業と密接な関連を持っていることを考えるようにする。 イ 国土の地形や気候の概要、自然条件から見て特色ある地域の人々の生活 ウ 公害から国民の健康や生活環境を守ることの大切さ エ 国土の保全などのための森林資源の働き及び自然災害の防止	D 身近な消費生活と環境 (2) 環境に配慮した生活の工夫について、次の事項を指導する。 ア 自分の生活と身近な環境とのかかわりに気づき、物の使い方などを工夫できること。	1. 主として自分自身に関すること。 (1) 生活習慣の大切さを知り、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心掛ける。 3. 主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること。 (2) 自然の偉大さを知り、自然環境を大切にすること。 4. 主として集団や社会とのかかわりに関すること。 (7) 郷土や我が国の伝統と文化を大切にし、先人の努力を知り、郷土や国を愛する心をもつ。	環境

学習指導要領との関連

学年	小学校6年
教科/領域	理科
学習内容	<p>A 物質・エネルギー (2) 水溶液の性質 いろいろな水溶液を使い、その性質や金属を変化させる様子を調べ、水溶液の性質や働きについての考えをもつことができるようにする。</p> <p>ア 水溶液には、酸性、アルカリ性及び中性のものがあること イ 水溶液には、気体が溶けているものがあること ウ 水溶液には、金属を変化させるものがあること</p> <p>B 生命・地球 (3) 生物と環境 動物や植物の生活を観察したり、資料を活用したりして調べ、生物と環境とのかかわりについての考えをもつことができるようにする。</p> <p>ア 生物は、水及び空気を通して周囲の環境とかかわって生きていること</p>



水資源は地球上を循環しており、水資源や水環境の保全には自然と社会、人と人の活動が相互に影響している。



私たち人間が利用できる水資源は、地球全体の水の中ではごくわずかである。



地域の水資源・水環境を保全していくためには、流域を含めた地域全体で連携していく必要がある。



水資源・水環境を保全していくためには、どのような社会づくりが必要か、自ら考え、構築する。



日常生活や地域社会における水資源の利用・保全のあり方を見つめなおす。



水資源について、さまざまな観点から理解する。また、地域の実情や課題の解決法を多面的、総合的に考える。

ESDで育
みたい
能力/
態度

活動・学習内容

指導・支援の方法、ポイント等〔教材・必要物〕

地域と水の関わりについて情報を共有しよう

1・2
時間目

- ・北海道の産業や私たちの生活と水資源との関わり（水資源の賦存状況や利用状況）を学ぶ。
- ・地域の農業などの産業や、歴史、河川や湖沼、海、降雨・降雪などの自然環境について知り、地域の水（水資源・水環境）の特徴について話し合う。
- ・地域で水資源を多く使う会社や農家などから現場の話をつかおう。

- 地域と水の関わりについて、現在持っている情報の共有を進める。また、児童にプログラムに対する動機付けを高めるため、さまざまな疑問や好奇心が生じるように働きかける。
- ・地域と水の関わりについて、児童が実感をもって認識できるよう、写真や映像などの視覚資料やデータを用いる。
- ・見学时、地域の産業の成り立ちと水資源の関わりなど、児童が見過ごしやすいと考えられる視点については、問いかけを行う。

批判	未来
多面	伝達
協力	関連
参加	

私たちが「使う」水について考えよう

3時間目

- ・活動を通じて水が地球上のどこに、どのような状態で存在しているのかについて体験的に学ぶ。
- ・水の区分や種類（状態、淡水・海水、飲用に適した水／適していない水等）を考える。
- ・私たちが日々の営みに使う水は、世界的にはごくわずかな量であることに気づき、現状のように水を使えることを当たり前と考えていいのか話し合う。

- ◎体験を伴う活動を通じて、児童が地域の水資源の重要性や希少性に気づくよう支援する。
- ・サイコロを使った「水の循環経路」や「地形と水の滞留時間の関わり」を学ぶ活動、地球儀型のビーチボールを使った「地球（表面積）における海と陸の割合」を学ぶ活動など、体験を伴う活動を盛り込む。（「地域で実践するときの補足情報」の「水に関する体験型教育プログラムについて」参照）
- ・私たちが特に意識せず利用している水について、児童が自分の価値観を見直すことができるよう、問いかけを行う。

批判	未来
多面	伝達
協力	関連
参加	

活動・学習内容

指導・支援の方法、ポイント等〔教材・必要物〕

水とのつきあい方を考えよう

- ・ 毎日の生活において水を使う場面を洗い出し、一般的なデータをもとに使用状況を確認し、その結果について話し合う。（水資源の利用の見直し）
- ・ 地域にたどりついてくる水や、日々の生活や地域の産業で使われている水はどこから来てどこに行くのかを調べ、話し合いを通じて、川の流域での水の使われ方や守られ方を理解する。（水環境の保全の見直し）
- ・ 上記の学習を踏まえ、私たちは今後、水とどのようにつきあっていけばいいのかを話し合い、整理する。できることについては実際に期間を設けて取り組んでみる。

- ◎地域の水資源の利用や保全について、学習・理解を深める。また、自分たちの生活と河川の環境がつながっていることを示唆し、将来にわたる環境や資源の保全のために、現在の私たちのあり方を見直すことができるように促す。
- ・ 児童に実感が湧くように「自分自身が生活で使う水」に焦点を当て、時間軸に沿って確認する。また、使われた水の行く先について想像することを促す。
- ・ 視点を地域・流域の農業・漁業などの産業の関わりや、自然（涵養機能を持ち、「緑のダム」とも呼ばれる森林など）に広げて、意見交流を促す。また、サケの回帰を目指して河川環境の保全に取り組む活動などを取り上げ、地域住民や市民団体などの関係者の連携協力や努力の積み重ねが必要であることを示唆する。
- ・ 過去と現在、未来はつながっており、現在の私たちの水資源に関する取り組みが、水を取り巻く地域の未来の姿に影響を与えることを意識するよう働きかける。

4~7
時間目

批判	未来
多面	伝達
協力	関連
参加	

取り組んだことや考えたことをまとめよう

- ・ 取り組んだことや考えたこと、わかったことを、グループごとに新聞形式などにまとめ、発表の準備を行う。

- ◎児童が見過ごしそうな情報についてふりかえりを促す。
- ・ 複数の情報や意見の関係性に注目させ、論理的に考えるよう働きかける。

8~10
時間目

批判	未来
多面	伝達
協力	関連
参加	

活動・学習内容

指導・支援の方法、ポイント等〔教材・必要物〕

11・12
時間目

まとめたことを発表しよう

・グループごとにまとめたことを、下級生や地域住民、行政職員、プログラム関係者等に発表する。
・将来に残していきたい地域の水環境について意見交換を行う。

◎児童の発信に対する発表会参加者からのフィードバックを通じて、学んだことや考えたことを、これからのライフスタイルや行動につなげるよう促す。
・プログラム全体を通して、児童が印象に残ったことを表現、発表し、今後の生活において心がけたいことを言語化できるよう支援する。

批判 未来
多面 伝達
協力 関連
参加

地域プログラム化メンバー、実証協力校等

地域プログラム化メンバー
北海道ブロック 平成26年度持続可能な地域づくりを担う人材育成事業に係るESD環境教育推進委員会

実証協力校
・札幌市立清田小学校